

第37回 景気動向調査アンケート報告

(2013年9月～12月期)

＜今期実績、来期予測とも業況判断DI+26で過去最高、

しかし、「13年冬の賞与」実績DI+16で好業況と連動アップせず＞

○全体業況判断DI（好転企業数－悪化企業数）÷回答企業数の％、2008年からの推移表

年	1-4月期	5-8月期	9-12月	年間3期平均
2014	(+26) (予測)	(未調査)	(未調査)	—
2013	+8	+16 (同期最高)	+26 (今期) (全期最高)	+16.6
2012	+19	▲6	+4	+5.6
2011	▲13	▲13	+7	▲6.3
2010	▲1	▲22	▲7	▲10.0
2009	▲33	▲29	▲29	▲30.3
2008	▲26	▲36 (全期最低)	▲28	▲30.0

・鹿児島県の中小企業家の業況判断は、好転を続けている。調査全期最高DI+26の今期を含む2013年は3期とも好転企業が悪化企業を上回り続伸、3期平均は+16.6。上表の年間3期平均を見ると、底の08-09年の▲30代から、10-12年の▲10～+5.6の好悪拮抗期を経て、5年程の期間をかけた着実に改善してきた。来期も+26を予測。今後の業況推移分析では、14年、15年と2段階で予定される消費税率アップの影響度が最大の焦点となる（賞与実績DIについては、下記参照）。

○前年同期から今期までの個別指標実績の推移は、売上DI（+12→+5→+13→+27）、収益DI（±0→▲2→+2→+12）、資金繰りDI（±0→+2→+10→+10）と、不安要因は見えない。来期見込みも売上（+26）、収益（+16）、資金繰り（+16）と、全指標プラスとなっている。

○業種別業況DI実績を前年同期比で見ると、改善ポイントの大きい順に①卸売業+46ポイント（▲13→+33）、②小売業+43ポイント（▲29→+14）、③製造業+27ポイント（▲11→+16）、④建設業+18ポイント（+17→+35）、⑤個人向けサービス業+18ポイント（+17→+35）、⑥事業所向けサービス業+10ポイント（+10→+20）となり、全業種プラス。+40ポイントを超える大幅改善は、卸売業と小売業。小売業は前回6業種中唯一同期比で悪化、最下位から今回の大幅改善。消費税率アップ前の在庫備蓄需要と駆け込み消費需要の伸びを裏付ける結果となった。

概要

◎経営上の問題点は、前回調査に比べ、仕入価格の上昇が13.9ポイント、従業員の不足が6.6ポイント増加している。経営上の力点においては、前回調査と大きな違いはなく、付加価値の増大と新規受注の確保が上位を占めている。

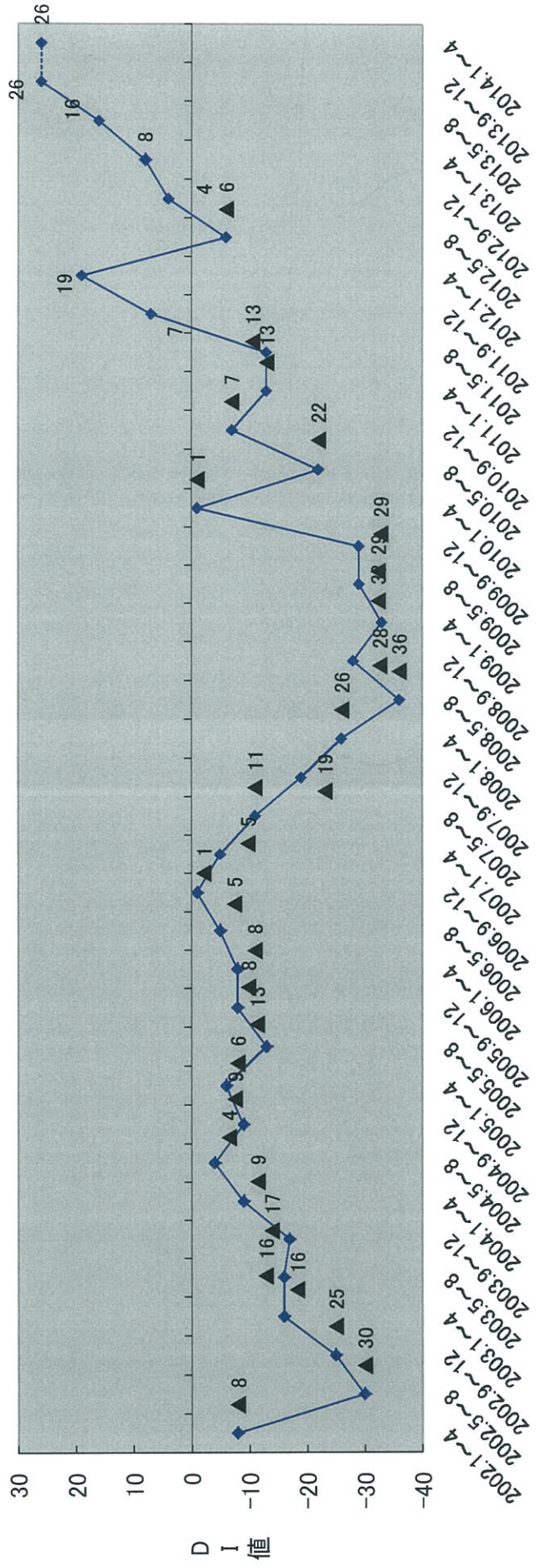
◎冬の賞与実績DIについて 賞与実績DI＝（アップ企業数－ダウン企業数）÷回答企業数の％
・賞与実績DIは、前回調査「13年夏の賞与」（12年夏比）は+18（アップ36、変わらず73、ダウン14、無答7）、今回「13年冬の賞与」（12年冬比）は+16（アップ32、変わらず78、ダウン12、無答13）。夏冬とも、DI値プラスという点で、ここ1年余りの好業況を反映している。但し、冬はDI+16で、今期業況DI+26に比し、▲10ポイント。業況に連動アップしているとは言い難い。

◎消費税対応策について

・前々回13年1-4月期調査から今回の変化は「策定済み」23.9%→25.2%、「検討中」50.7%→47.4%「わからない」22.5%→16.3%。対応状況に目立った有意差はない。具体策では、価格表示の変更等の転嫁策と諸経費の節減等の自助努力吸収策の両面から、多くの回答が寄せられた。

1. 対象企業 鹿児島県中小企業家同友会会員企業（303社）
2. 対象期間 2013年9月～12月期実績、2014年1月～4月見通し
3. 調査方法 FAXによる自計記入を求めた
4. 回答企業数 135社より回答を得た 回答率44.6%

全体の業況



全体

今期の業況は「良い」35.1%、「変わらず」56.0%、「悪い」8.9%でD.I.26となっており、前期(16)に比べ、改善しています。来期の業況はD.I.26と横ばいの見通しです。



今期の売上は「良い」37.1%、「変わらず」53.3%、「悪い」9.6%でD.I.27となっており、前期(13)に比べ改善しています。来期の売上はD.I.26とほぼ横ばいの見通しとなっています。



今期の収益は「良い」26.1%、「変わらず」59.7%、「悪い」14.2%でD.I.12となっており、前期(2)に比べ改善しています。来期の収益はD.I.16とさらに改善する見通しです。



今期の資金繰りは「良い」21.7%、「変わらず」66.4%、「悪い」11.9%でD.I.10となっており、前期(10)と横ばいの状況です。来期の資金繰りはD.I.16と改善する見通しです。



製造業

今期の業況は「良い」33.3%、「変わらず」50.0%、「悪い」16.7%でD.I.16となっており、前期(11)に比べ改善しています。来期の業況はD.I.▲4と悪化する見通しです。



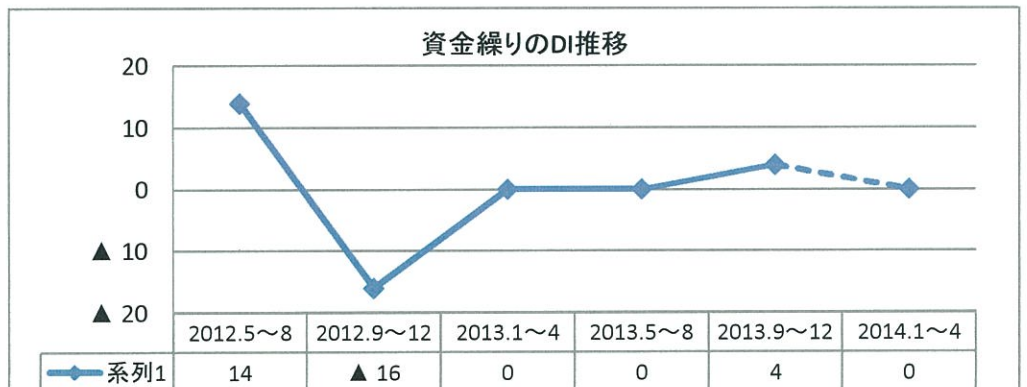
今期の売上は「良い」33.3%、「変わらず」50.0%、「悪い」16.7%でD.I.17となっており、前期(16)と横ばいの状況です。来期の売上はD.I.▲5と悪化する見通しです。



今期の収益は「良い」33.3%、「変わらず」41.7%、「悪い」25.0%でD.I.8となっており、前期(▲5)に比べ改善しています。来期の収益はD.I.9と横ばいの見通しとなっています。

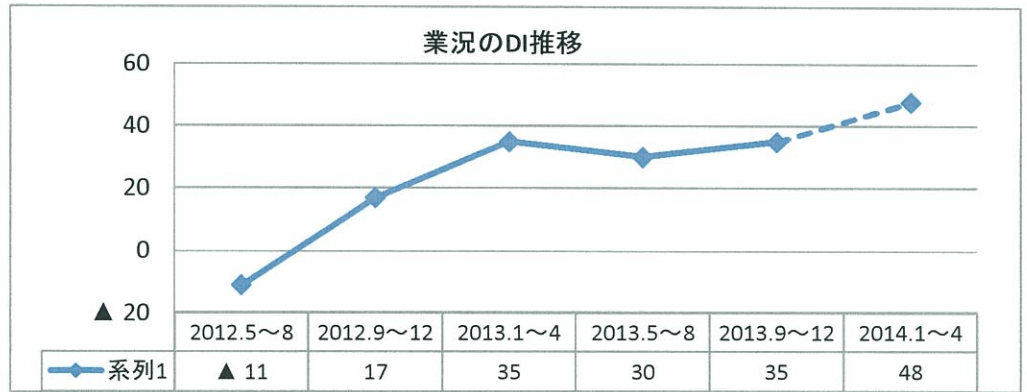


今期の資金繰りは「良い」25.0%、「変わらず」54.2%、「悪い」20.8%でD.I.4となっており、前期(0)に比べやや改善しています。来期の資金繰りはD.I.0と再び悪化する見通しとなっています。



建設業

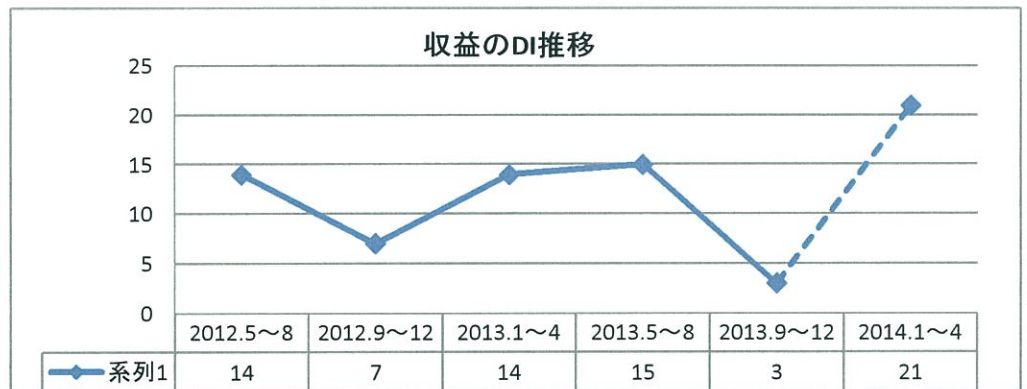
今期の業況は「良い」50.0%、「変わらず」35.3%、「悪い」14.7%でD.I.35となっており、前期(30)に比べやや改善しています。
来期の業況はD.I.48とさらに改善する見通しです。



今期の売上は「良い」47.1%、「変わらず」38.2%、「悪い」14.7%でD.I.32となっており、前期(24)に比べやや改善しています。
来期の売上はD.I.48とさらに改善する見通しです。



今期の収益は「良い」26.5%、「変わらず」50.0%、「悪い」23.5%でD.I.3となっており、前期(15)に比べ悪化しています。
来期の収益はD.I.21と再び改善する見通しとなっています。



今期の資金繰りは「良い」26.5%、「変わらず」55.9%、「悪い」17.6%でD.I.9となっており、前期(12)に比べやや悪化しています。
来期の資金繰りはD.I.24と大幅に改善する見通しとなっています。

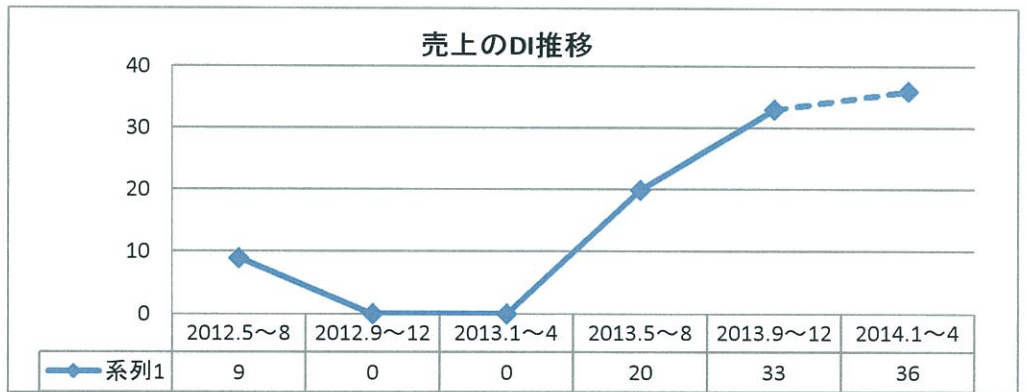


卸売業

今期の業況は「良い」33.3%、「変わらず」66.7%、「悪い」0.0%でD.I.33となっており、前期(11)に比べ改善しています。来期の業況はD.I.27とやや悪化する見通しとなっています。



今期の売上は「良い」41.7%、「変わらず」50.0%、「悪い」8.3%でD.I.33となっており、前期(20)に比べ改善しています。来期の売上はD.I.36とさらに改善する見通しとなっています。



今期の収益は「良い」25.0%、「変わらず」58.3%、「悪い」16.7%でD.I.8となっており、前期(0)に比べ改善しています。来期の収益はD.I.9と横ばいの見通しとなっています。

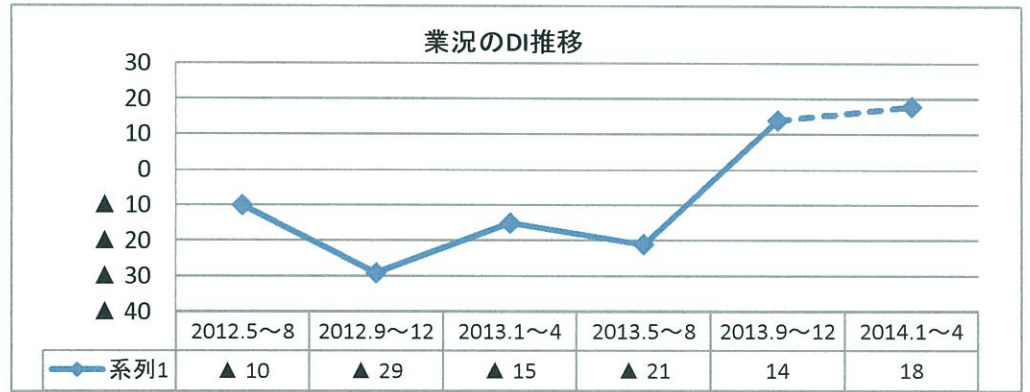


今期の資金繰りは「良い」33.3%、「変わらず」66.7%、「悪い」0.0%でD.I.33となっており、前期(20)に比べ改善しています。来期の資金繰りはD.I.27と再び悪化する見通しとなっています。

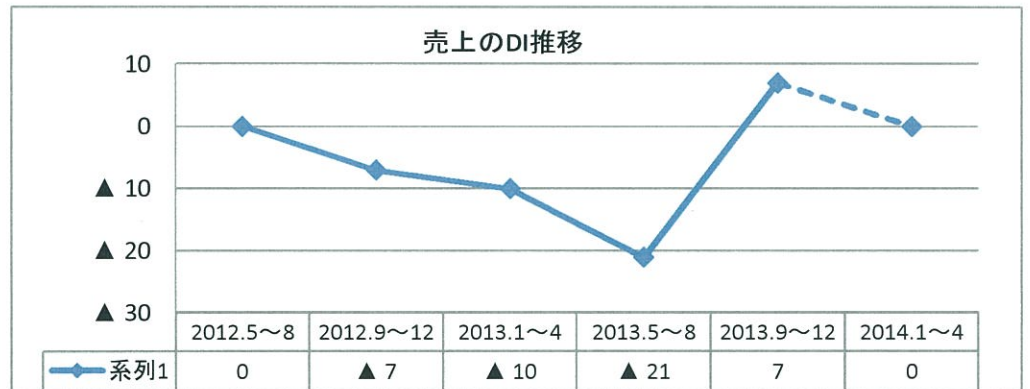


小売業

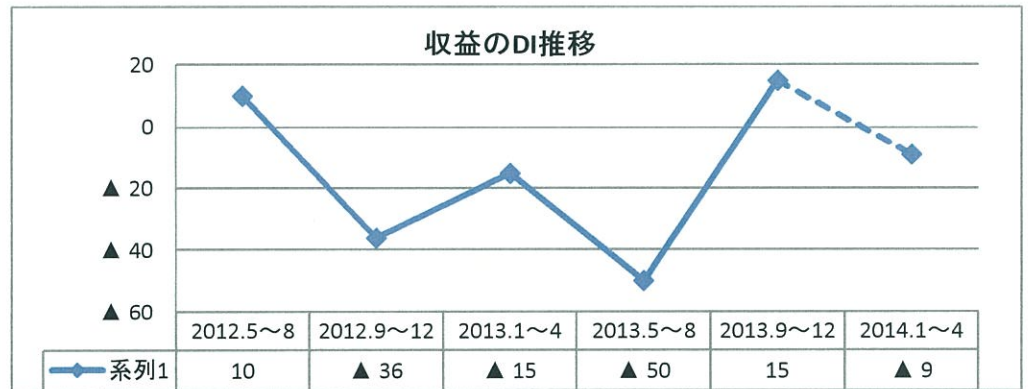
今期の業況は「良い」21.4%、「変わらず」71.4%、「悪い」7.2%でD.I.14となっており、前期(▲21)に比べ大幅に改善しています。
来期の業況はD.I.18とさらに改善する見通しとなっています。



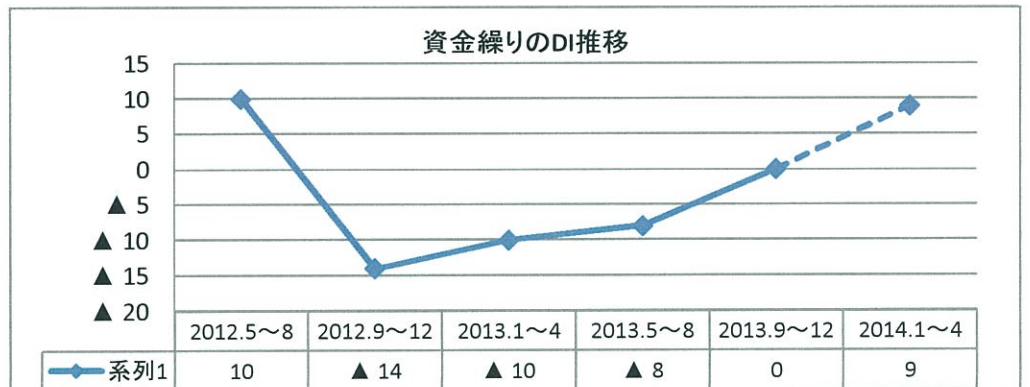
今期の売上は「良い」21.4%、「変わらず」64.3%、「悪い」14.3%でD.I.7となっており、前期(▲21)に比べ大幅に改善しています。
来期の売上はD.I.0と再び悪化する見通しとなっています。



今期の収益は「良い」23.1%、「変わらず」69.2%、「悪い」7.7%でD.I.15となっており、前期(▲50)に比べ大幅に改善しています。
来期の収益はD.I.▲9と再びマイナスに転じる見通しとなっています。

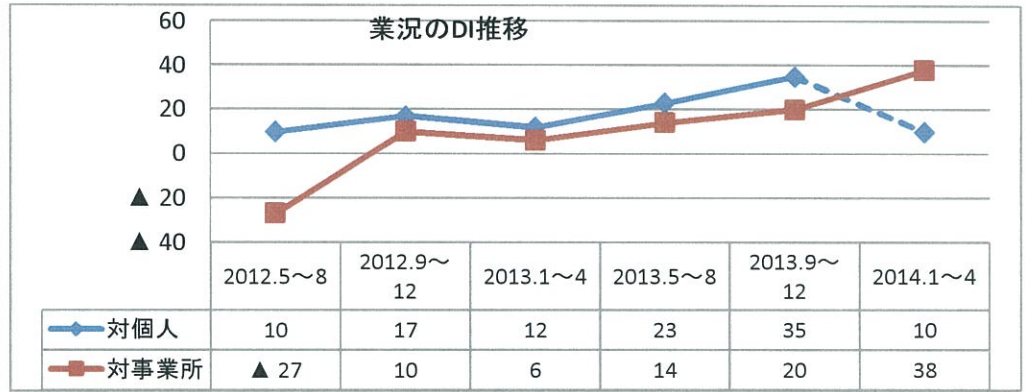


今期の資金繰りは「良い」15.4%、「変わらず」69.2%、「悪い」15.4%でD.I.0となっており、前期(▲8)に比べ改善しています。
来期の資金繰りはD.I.9さらに改善する見通しです。

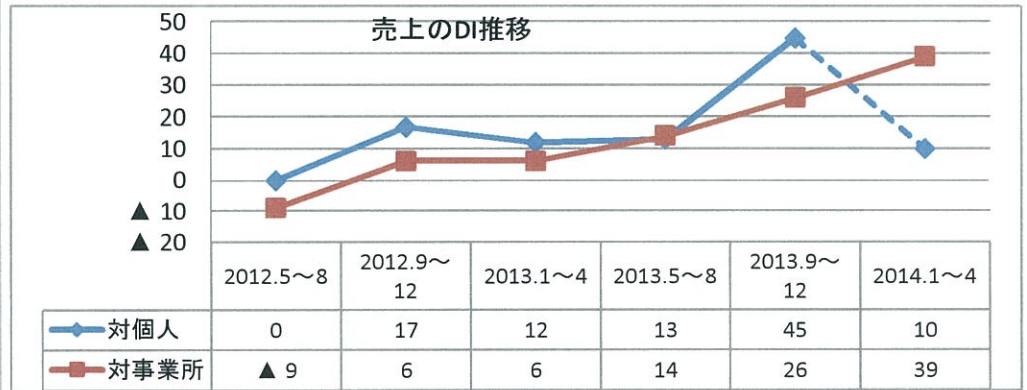


サービス業

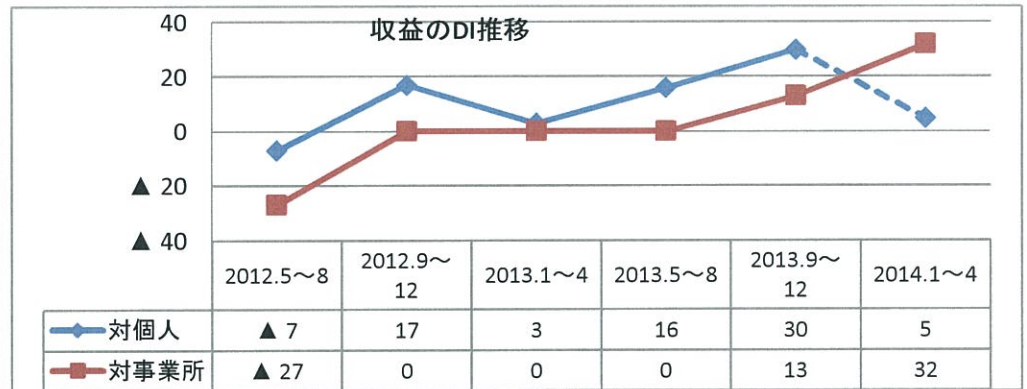
今期の対事業所向けの業況は「良い」26.7%、「変わらず」66.7%、「悪い」6.6%でD.I.20となっており、前期(14)に比べ改善しています。来期の業況はD.I.38とさらに改善する見通しです。対個人向けは「良い」35.0%、「変わらず」65.0%、「悪い」0.0%でD.I.35となっており、前期(23)に比べ改善しています。来期はD.I.10と悪化する見通しです。



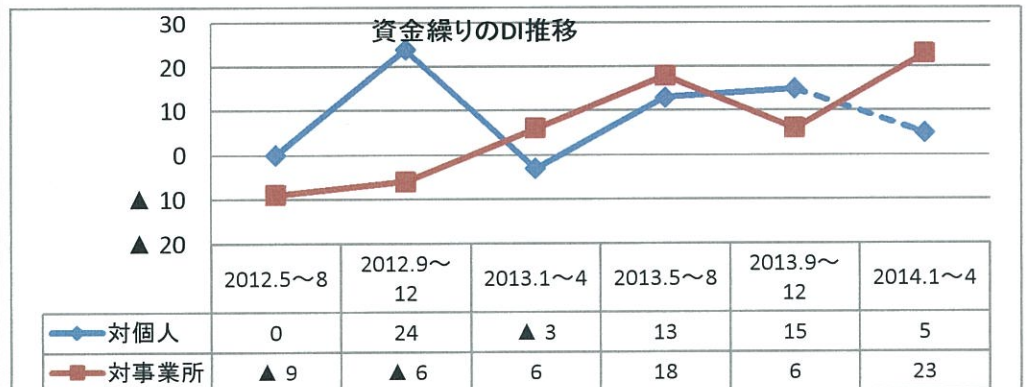
今期の対事業所向けの売上は「良い」29.0%、「変わらず」67.8%、「悪い」3.2%でD.I.26となっており、前期(14)に比べ改善しています。来期の売上はD.I.39とさらに改善する見通しです。対個人向けは「良い」45.0%、「変わらず」55.0%、「悪い」0.0%でD.I.45となっており、前期(13)と比べ大幅に改善しています。来期はD.I.10と再び悪化する見通しです。



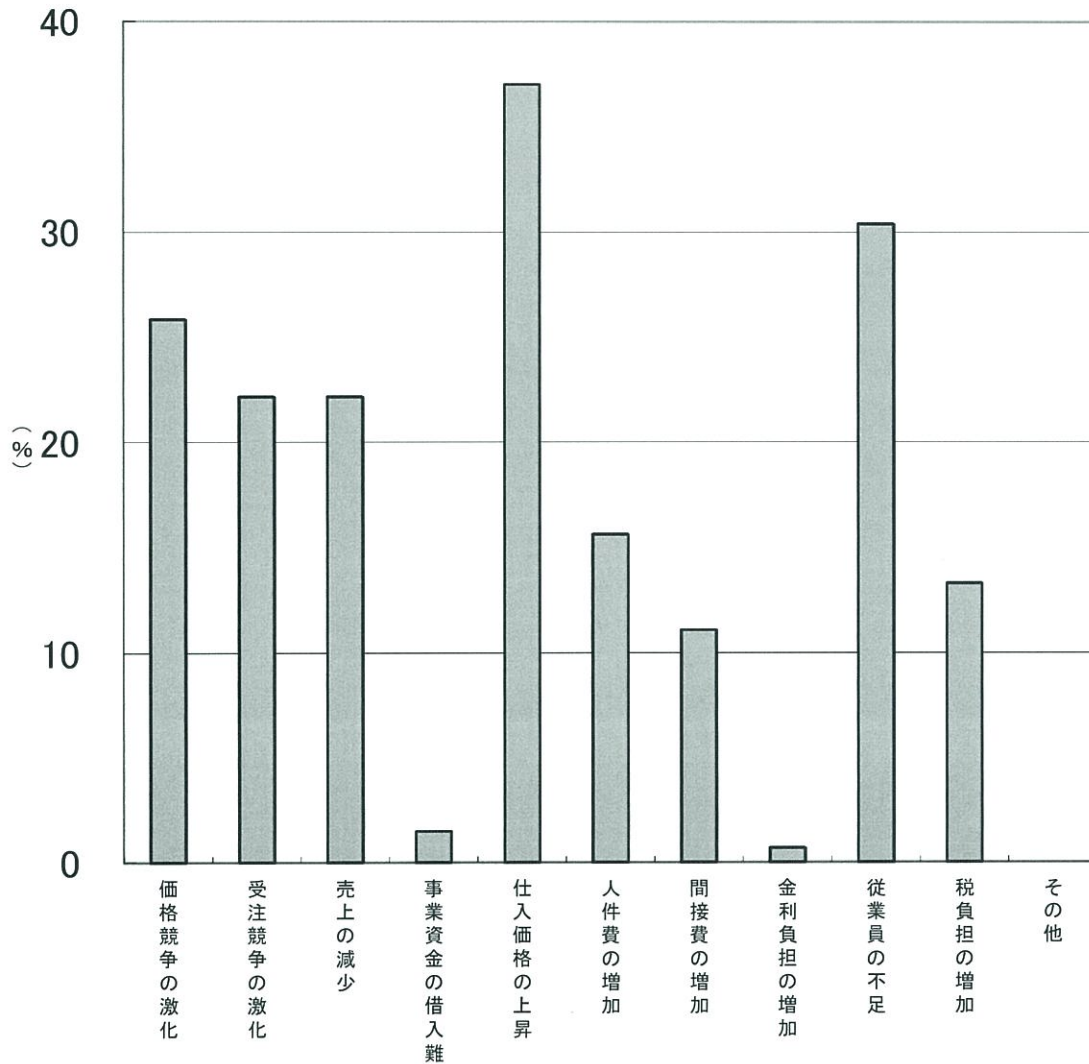
今期の対事業所向けの収益は「良い」19.4%、「変わらず」74.2%、「悪い」6.4%でD.I.13となっており、前期(0)に比べ改善しています。来期の収益はD.I.32とさらに改善する見通しです。対個人向けは「良い」30.0%、「変わらず」70.0%、「悪い」0.0%でD.I.30となっており、前期(16)に比べ改善しています。来期はD.I.5と再び悪化する見通しです。



今期の対事業所向けの資金繰りは「良い」12.9%、「変わらず」80.6%、「悪い」6.5%でD.I.6となっており、前期(18)に比べ悪化しています。来期の資金繰りはD.I.23と再び改善する見通しです。対個人向けは「良い」20.0%、「変わらず」75.0%、「悪い」5.0%でD.I.15となっており、前期(13)に比べほぼ横ばいの状況です。来期はD.I.5と悪化する見通しです。

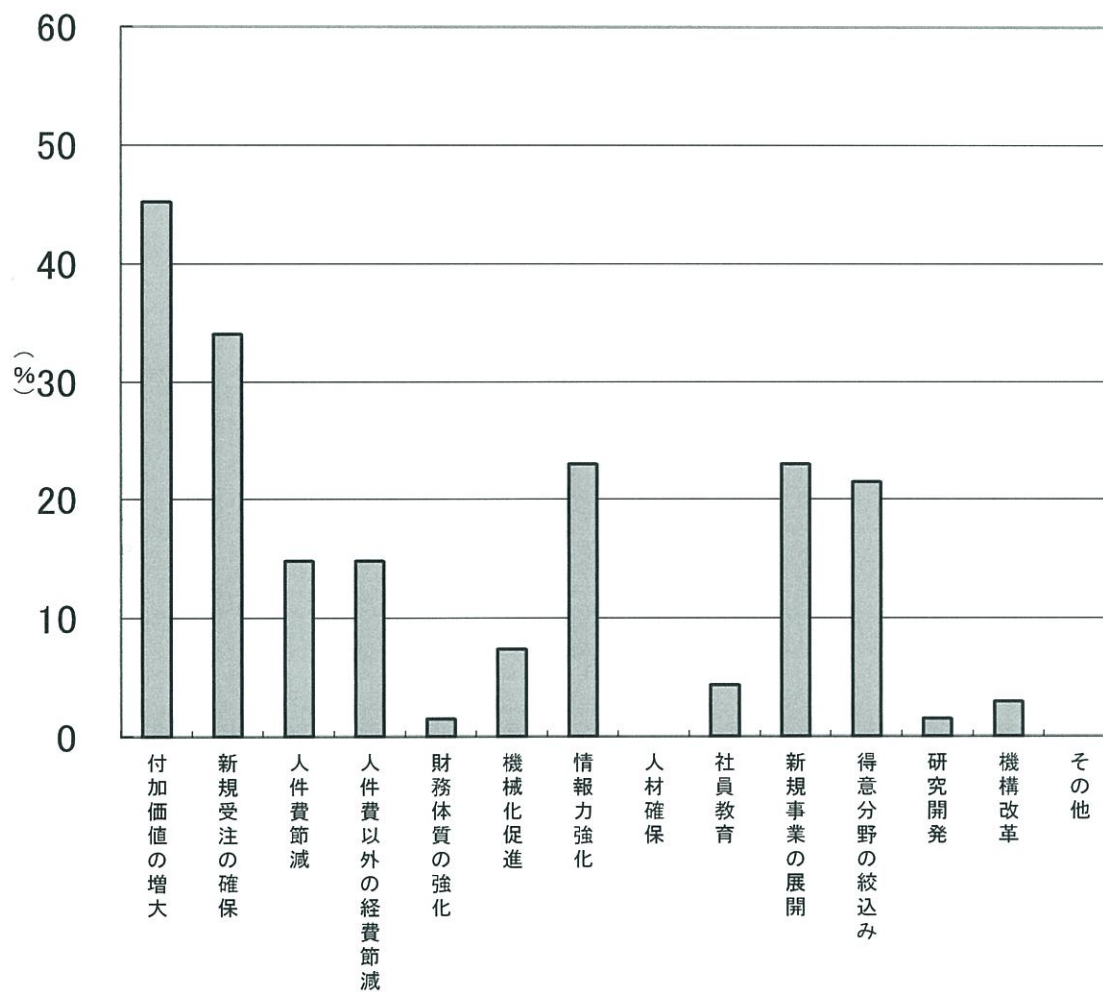


経営上の問題点



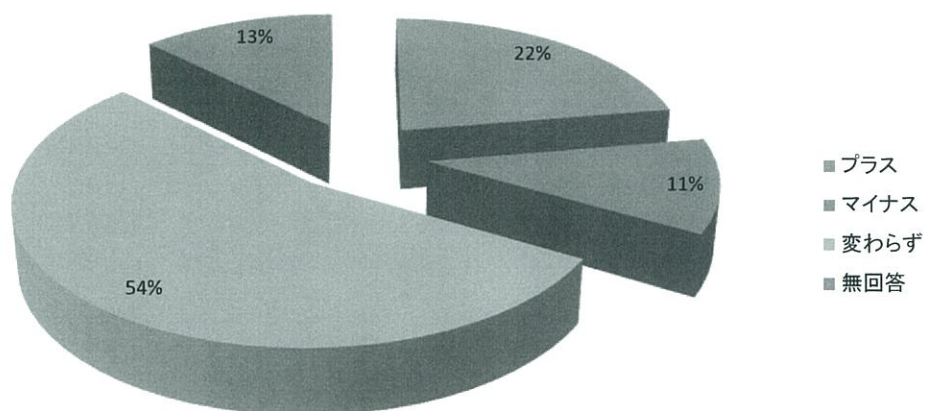
カテゴリー	度数	%
1.価格競争の激化	35	25.9
2.受注競争の激化	30	22.2
3.売上減少	30	22.2
4.事業資金の借入難	2	1.5
5.仕入れ価格の上昇	50	37.0
6.人件費の増加	21	15.6
7.管理費等間接費の増加	15	11.1
8.金利負担の増加	1	0.7
9.従業員の不足	41	30.4
10.税負担の増加	18	13.3
11.その他	0	0.0

経営上の力点



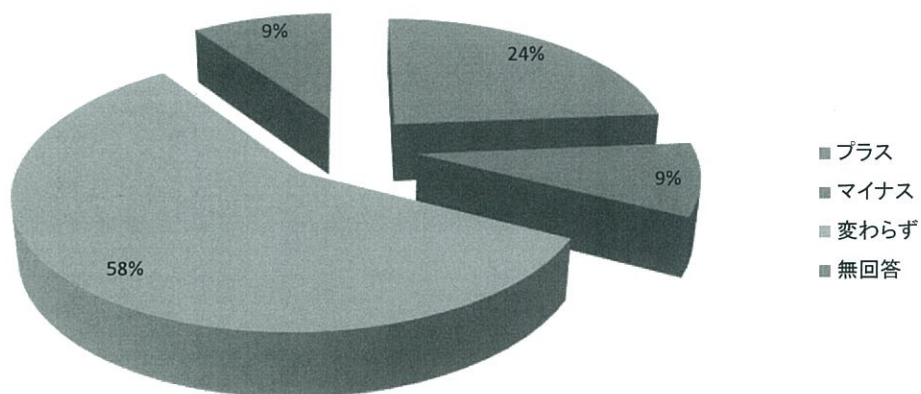
カテゴリー	度数	%
1.付加価値の増大	61	45.2
2.新規受注(顧客)の確保	46	34.1
3.人件費節減	20	14.8
4.人件費以外の経費節減	20	14.8
5.財務体質の強化	2	1.5
6.機械化促進	10	7.4
7.情報力強化	31	23.0
8.人材確保	0	0.0
9.社員教育	6	4.4
10.新規事業の展開	31	23.0
11.得意分野の絞込み	29	21.5
12.研究開発	2	1.5
13.機構改革	4	3.0
14.その他	0	0.0

(4)冬の賞与支給について2013年夏と比べて



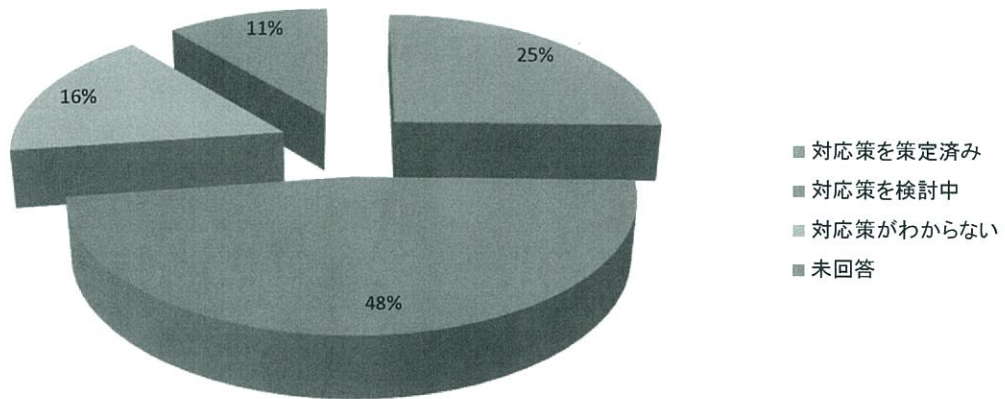
	%
プラス	22.2
マイナス	11.1
変わらず	54.1
無回答	12.6

(4)冬の賞与支給について2012年冬と比べて



	%
プラス	23.7
マイナス	8.9
変わらず	57.8
無回答	9.6

(5) 消費税8%の対応策の状況について



	%
対応策を策定済み	25.2
対応策を検討中	47.4
対応策がわからない	16.3
未回答	11.1